



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第17号 (2003年3月31日)



去る1月17日(金)、サントリーホール・小ホールにて、ハンガリーの名手ミクローシュ・ペレーニ氏をお招きして日本チェロ協会主催の公開マスタークラスを開催しました。当日聴講いただいた会員の皆さまには、厳しくも温かいご指導ぶりからペレーニ氏の芸術の一端を垣間見ていただけたのではないのでしょうか。

当日のプログラムと受講者3名の受講レポートをここにご紹介いたします。

【受講者】

田草川 亮太 (たくさがわ りょうた *ピアノ伴奏 松浦 真沙)

ハイドン：チェロ協奏曲二長調「第1楽章」

辻本 玲 (つじもと れい *ピアノ伴奏 下田 望)

ショスタコーヴィチ：チェロ協奏曲第1番 変ホ長調「第1楽章」

渡部 玄一 (わたなべ げんいち *ピアノ伴奏 杉山 恵理子)

ベートーヴェン：チェロソナタ第3番 イ長調「第1楽章」

ミクローシュ・ペレーニ マスタークラス開催

2003/1/17

(通訳 松田暁子)

聴講者 78名

緻密な作業の上に成り立つ「演奏」

田草川 亮太

レッスンに先立ってまず始めに何版で弾くのかを聞かれました。ショット版でやっていたのでそのことを伝え、ベーレンライター版のスコアを基に練習するようにとの事でした。理由は、数箇所において装飾音やボーイングがオリジナルと異なる形に変えられていて本来演奏すべきようにはなっていない場合があるからということです。

そして練習するに当たっては、ソロの部分だけではなくオーケストラのtuttiの所も合わせて弾く、という形で練習を進めていくことが必要であると言われました。

29小節目、最初のソロのテーマに入る時に少しテンポが後ろに引いているように聴こえるが、確かに歌うような感じではあるものの、それまで前奏が弾いてきたそのまのテンポで必ず始めるようにと言われました。(前奏も重くならずに進んでいくように)そして最初のDの装飾音はごく短く弾くようにと。

30小節目の4拍目表まではレガートに弾くように、特に2拍目の6連譜がスタッカートにならないように、ボーイングは1・2拍目まではスラーで弾くように言われました、そして4拍目裏からは波のうねりのように流れて進んで行くという感じになるように、32小節目の4拍目頭で少し静かになってそしてまた流れるように34小節目まで進んで行く、という風になるようにと。また、34小節目2・3拍目は、フラットな感じに聴こえてしまわない様に、スラーではなく弓を切ってセパレートに、音に変化がつくように弾くのが良いのではと言われました。37小節目においても同じことが言える。

そして34小節最後でオーケストラに受け渡す所ではディミヌエンドのようにはならないようにとの事でした。

37小節目は弓を全部返してボーイングは変わらず、そして正確に、少しレジューロにするようにと。

41小節目からの所は、オーケストラは伴奏だけをしている、という場所なので、ソロとしては一歩前に出た感じで、一つ一つの音により気持ちを込めて、幅広く、ハーモニー感を

持って演奏すると良いと思うと言われました。

46小節目の3・4拍のトリルは十分に速く緻密な（ピアノ伴奏で弾くときには特に）トリルにするように。

50小節目に入る時にはその前からのオーケストラの流れをそのままのテンポで入るようにと言われました。そして始めの装飾音を入れる時にはC#の音を綺麗に保ちつつ、速く細かく入れるようにと、先に進む際にはフレーズを意識して、弓を返す時には、なるべくそれが聴いていて解らないようにするようにと。また50小節からの4小節はなるべく弦を変えないで、G線で弾く方が綺麗だろうと言われました。

54小節目からはそれまでとはまったく違う音色になるように。

56小節の細かい音ははっきり聴こえなければならないので、ここでも弓は切って弾く方が良い。

71小節目からの重音は下の音は切れないでずっと鳴っているように、上の音だけでフレーズをつけるように、そのためにはD線からは弓を放さないでずっと弾きながら上の音が変わるときだけA線からだけ弓を放すという風にするのだと。

100小節目の3拍目に入るときには、2拍目との間に少しでも隙間が空かないようにと、3拍目からは特に低い音がしっかりと出るようにということでした。

今回はここまでで時間が来てしまいましたが、終始に渡って非常に細かく、丁寧に見ていただきました。このレッスンを受けたことによって、ペレーニ氏が普段どのように音楽に向かっているのかが垣間見えたような気がしました。一つの曲を演奏するというのが、どれだけ緻密な作業の上に成り立っているのかという事が良く分かるレッスンだったと思います。すべてのフィンギングやボーイングはどのように演奏すべきなのかということのを元に考えられていて合理的でかつ音楽的だと感じました。このレッスンで言われたこと全てを身に付けるためにはまだまだ時間がかかるとは思いますが、これを生かして少しでも高いレベルを目指せるようにと思います。



マスタークラス受講レポート②

音一つ一つに“意味”を吹き込む



辻本 玲

まず弾く前にテンポと曲中に多く用いられるテヌート・スタッカートについて指摘された。テンポはショスタコーヴィチ自身が提示している $\alpha=116$ が良いであろう。1 楽章はずっと同じテンポで弾かれるべきだ。又、テヌート・スタッカートについては、短くならず、腕を使ってその音をちゃんと弾くようなボーイングで。でも押付けることはせず、弓のバウンドを大切に。

冒頭のモチーフの最初の3音は、1つのグループとして弾くのではなく一つ一つの音をそれぞれ意図的に出さなければならない。

2小節目の音は抜かないで保つべきだ。そして、次の音にいくときは弓の返しをすばやくする。

36小節目は弓をたくさん使って腕のスウィングをなくしてはいけない。*non legato*で弾くべきだ。

38小節目のシンコペーションの形はべったり弾かないで。

59小節目の形はスタッカートはついてないのでべったり弾く。音を引っ張りだすような弾き方で。

86小節目からのテーマは一音一音にアクセントを付して弾かずに、横に引きのぼす感じで。全弓で。アクセントを付けるのは伴奏のほうである。

89小節の3拍目からのg-fis-cisは3つで一セットで考えfisにアクセントを付けてはいけない。

125小節からはピアノの伴奏ではあるが決してピアノに隠れてはいけない。アーティキュレーションに沿ってニュアンスをつける。

141小節目のfはできるだけ弓を使ってdim.にそって弓の量を減らしていく。

142小節からのpはしすぎないように、そして弓が少なくなりすぎないように。

158小節目からのメロディーはアーティキュレーションをもっとつける。この辺りによく出る□□□□はなるべく長く。

178小節からのパッセージは常に緊張感がなければならぬ。8分音符がただならんでいっているのではなく、いろんなニュアンスをつけるべきだ。

195小節～202小節は一直線でいく。

203小節目の□□□□は弓を大きく、円を描くように使う。

205小節目の単音はテヌートでべったり弾く。

259小節目の3拍目のGは上に放り投げるように。

260小節目のバスのC-D-ES-Fが聴こえるように。

274小節目は弓をたくさん使う。

326～327小節の2分音符は1つ1つはっきりと。

334小節目のBからESにいくところは、叫びあげる感じで。

[感想]

弓によるキャラクターやニュアンスの付け方が不十分であることを再認識させられた。音1つ1つに“意味”を吹き込むことが音楽作りにおいてとても大切だということに気付かされた。

これからは、ただ音を弾くのではなく、意味のある音作りを心掛けていきたいと思います。



マスタークラス受講レポート③

シンプルであること



渡部 玄一

まず版の選定について御意見がありました。私はペータース版を持っていきましたが、ベートーベンについてはヘンレー版が良いとの事でした。私が今回弾かせて頂



いた範囲での版による大きな違いは以下の通りです。**11**小節（以下小節の語略）や**23**、**162**のラレントの表示、**36**と**173**の音の違いです。いずれの場合も先生はヘンレー版の方を支持されておりました。

今回のレッスンで何よりも強く印象に残ったのは、先生の美しい音の色合い（トーン）とシンプルで確固としたフレージングでありました。もとよりそのことを紙面において表現するのは不可能であります、フレージングにつきましては次の事を念頭に置いて頂ければ、多少なりともイメージして頂く助けになると思います。ヘンレー版のピアノ譜を参照して下さい。そしてそこに書かれたチェロパートのスラーが基本的にボーイングになります。私は今回呈示部と展開部のレッスンを受けましたが、その範囲では例外はほとんどありませんでした。

（**113**と**114**は一小節ずつ弓をかえされていましたが、しかし、もちろん一つのフレーズのように弾かれていました）。

ともあれ、先生が弾いて下さると、自分がいかに不必要な事をやっちゃっているか、意図せず音楽が複雑になり、本来の表現すべき事柄を手離してしまっているかを痛感させられました。先生が手本を示して下さい、自分がぎこちなくいびつに積み上げた物が、きれいに洗われ、形を整えられ、あるべき美しいすがたになって立ち現れるかのようでした。

そして、このような事を成し遂げるには、こうあるべきという確信に到らなければ不可能であり、楽器を弾く以前に、いかに多くの推考が重ねられたのかと、背筋ののびる思いでした。

以上の私の感想を参考にして戴き、以下の具体的なアドバイスを調べて頂ければ、レッスンの骨子のより深い理解につながるのではないかと思います。

1はV（アップボー）ではじめ、**2**～**3**□（ダウンボー）一弓で。指使いは、**6**まで以下の通り。| **1** **1** **2** | **2** **4** **1** | **3** **4** **3** **2** **3** **1** | **4** **2** **1** **3** | **5** **4** **1** **9** **1** | **6** **2** **5** については**4** **1** **1** **2**でも良い。**3**の**4** **3**に注意。

1でグリッサンドを入れないように。C線から**2** **2**とやっても良い。

5～**6**に重くならない。そのままオープンに音楽を進める。

16の入り、少しピアノを待つ。（呼吸を合わせる。）

24、アドリブの十六分音符は弓を切って弾いて良い。動きを表現する。

25、前の音から一呼吸開けずに、突然はじめる。Aの音はC線で。

27～**35**の間、スラーの最後の四分音符、三連符の後の四分音符、短くなり過ぎないというより響を失わないで。

36、*p*と表記してあるが、しっかりと。ピアノを引きついで。

38からの第二主題の所は、ピアノとチェロが、伴奏とソロのようにならず、お互よく聴きあい、表現し合うように。

40、最後の三つの音（H.G#.E）はこのフレーズのエッセンス。

51～**52**のテーマ、途中で音がぬけない。特に**♩**に気を付ける。

60～**64**、ピアノとチェロが、おたがいよくからみ合うように。タイミングが遅れたりしない。

65、ピチカートよく響かせて。弦を横にはじく。

77、*ff*と音楽の勢いを音の中にキープして。（次の小節の1拍目まで）

72、前小節の4拍目だけでなく、この小節の1拍目を、力強く重みをかけて。

75、4拍目を力解き放つように。決して弱くならず、しかしイン・テンポで。

83突然強く、そして小節いっぱい音の力を保って。

83～**84**、つながるように。

85、さらに力強く。

93～**94**は、ボーイングを変えても、8つの音が、一つのフレーズになるように。

96、G線上で。指使いは**1** **2**。

101、1拍目、決然と音を切る。が、響かせて。

102、アウフタクト含めて、*p*ではない。強い表現で。

104から*f*のまま、**106**～**107**はデクレッシェンドをしない。

115からの一連の十六分音符、元の方しっかり重みをかけて弾く、弓はたくさん使いすぎない。右手首をやや曲げて弾いてみる。

124、音を小さくしない。**125**までもっていく。

129～**130**、ピアノもチェロもテンポが後ろ向きにならない様、気を付ける。

144、あまり小さくならないで。

148に重きを置かない。むしろ前の音からディミネン

ドをする感じで。

140からの一連の二分音符、ビブラートはひかえめに
(せまくてゆっくりのビブラート)。

最後に先生に質問をさせて頂きました。

先生のボーイングは私から見ればマジックの様なもの
だが、何か特別な訓練や、ある有効な日課や練習法があ

るのかと言う質問でした。もとよりこの様な質問に、簡
単な答えがあるとは思いませんでしたが……。

先生は笑って、「奴隷の様に努力をしてきました。この
仕事は大変です。」という。先生の音楽の様にシンプルで
明解なお答を下さいました。

「インターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸」の ロゴマーク決定！

かねてからお知らせしています「インターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸」(2005年)の
ロゴマークが決定しました。

<NPO国際チェロアンサンブル協会>の関係者でボランティアでご応募いただいたデザイナーの作品で
す。今後、本イベントのPRや各種印刷物、イベント会期中の表示・サイン等に使用してイベントを盛り
上げて参ります。

【インターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸】開催概要

【名義】1. 名称 インターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸

～1,000人のチェロコンサート～

2. 場所 神戸ポートピアホテル、ワールド記念ホール、神戸国際会議場

3. 日程 2005年5月16日(月)～22日(日)

4. 主催 NPO国際チェロアンサンブル協会

5. 共催 日本チェロ協会(JCS)、(社)才能教育研究会

【内容】1. 1,000人のチェロコンサート

2. マスタークラス

3. リサイタル／コンサート

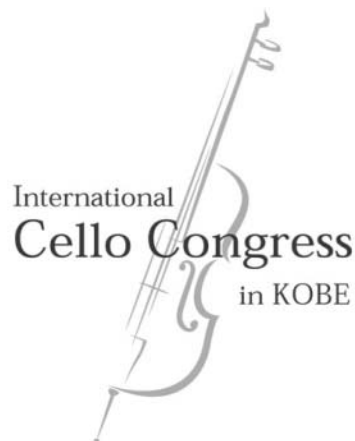
4. レクチャー

5. ワークショップ

6. 楽器の展示・販売

7. シンポジウム

★マスタークラス、リサイタル／コンサート、
レクチャー等へは、世界各国の著名アーティ
ストに参加要請をする予定です。
(既に参加が内定しているアーティストあり)



情報コーナー

ハンナ・チャン チェロ・リサイタル

4/12 (土) 18:00開演 サントリーホール

出演:ハンナ・チャン (Vc)、ダリア・ホヴォラ (Pf)

入場料:S6000円 A5000円 B4000円 C3000円

学生2500円

お問合せ:ジャパン・アーツ03-3499-9990

園田高弘ベートーヴェンツィクルス

～室内楽Vol. 1～チェロ・ソナタ

4/18 (金) 19:00開演 トッパンホール

出演:藤森亮一 (Vc)、園田高弘 (Pf)

入場料:全席指定5000円、学生2000円

お問合せ:トッパンホールチケットセンター

03-5840-2222

<エスポワール>趙 静 Vol. 3 ～室内楽～

4/21 (月) 19:00開演 トッパンホール

出演:趙 静 (Vc)、堀了介 (Vc) ほか

入場料:全席指定4000円、学生1500円

お問合せ:トッパンホールチケットセンター

03-5840-2222

グスタフ・マーラー・ユーゲント・オーケストラ

4/24 (木) 19:00開演 東京オペラシティコンサート
ホール

出演:ジャン＝ギアン・ケラス (Vc)、ピエール・
ブーレーズ (指揮)、グスタフ・マーラー・
ユーゲント・オーケストラ

入場料:S19000 A15000 B12000 C8000 D5000
Pt24000

お問合せ:カジモト・イープラス03-5749-9960

ダーヴィド・ゲリングス チェロ・リサイタル

5/10 (土) 18:00開演 浜離宮朝日ホール

出演:ダーヴィド・ゲリングス (Vc)、イアン・ファ
ウンテン (Pf)

入場料:全席指定6000円 学生・シルバー 3000円

お問合せ:カジモト・イープラス03-5749-9960

ダーヴィド・ゲリングス チェロ・リサイタル

5/19 (月) 19:00開演 浜離宮朝日ホール

出演:ダーヴィド・ゲリングス (Vc)、イアン・ファ
ウンテン (Pf)

入場料:全席指定6000円 学生・シルバー 3000円

お問合せ:カジモト・イープラス03-5749-9960

第5回別府アルゲリッチ音楽祭

5/12 (月) 19:00開演 サントリーホール

出演:ミッシェル・マイスキー (Vc)、マルタ・アルゲ
リッチ (Pf)、セルゲイ・ナカリャコフ (Tp)、
ジュリアン・ラクリン (Vn) 伊藤京子 (Pf)、
他

入場料:S12000 A10000 B8000 学生3000

お問合せ:音楽祭組織委員会東京事務局03-5467-0081

第8回宮崎国際音楽祭

5/21～6/3 宮崎県立芸術劇場 ほか

出演:岩崎 洸, 上村 昇, ジャン・ワン, リン・
ハレル (以上Vc) ほか

お問合せ:宮崎国際音楽祭事務局0985-28-3210

溝口肇コンサート2003

6/27 (金) 19:00開演 サントリーホール

出演:溝口肇 (Vc)

入場料:S7000 A5000 P4000

お問合せ:ホリプロ

アレクサンドル・チャウシャン チェロ・リサイタル

6/27 (金) 19:00開演 サントリーホール (小ホール)

出演:アレクサンドル・チャウシャン (Vc)、アナヒ
ト・チャウシャン (Pf)

入場料:自由席4000円 学生2000円

お問合せ:

編集後記

桜の開花ニュースが続々と聞かれる季節となり、チェロ協会
もまた新年度を迎えます。チェロ協会の春は、パリからのお
客様フィリップ・ミューレル先生のマスタークラスから始ま
ります。この『会報』がお手元に届く頃にはもう直前と迫っ
ているはずですが、まだ聴講された事のない方もいちど是非
足を運んでみられませんか。皆さまのお越しをお待ちして
おります。(田中)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第17号

2003年3月31日発行

発行:日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人:堤 剛

編集:日本チェロ協会事務局

編集協力:リュウカンパニー